

令和5年度 大田区立北糀谷小学校 自己評価 報告書

令和6年2月14日

○ 本校の概要

平成147月を迎え、東京都のある学校である。学校規模は児童数292人(5月15日現在)、通常級は12級で「難聴・言語障害」学級を併設している。この数年、学区域外から入学者が増加している。平成30・31年度に東京都プログラミング教育推進校、令和元年度は田山区教育研究推進校、令和2・3年度は大田区キリヤ教育研究推進校として研究発表をされた。令和5、6年度、再び大田区教育研究推進校としてキリヤ教育の研究を進める。また、文科省の実践証協力校としての役割を担っている。主体的に取り組む児童の育成を目指したキリヤ教育や学校行事の実践は、東京都の代表として全国大会でも紹介されている。

学校の課題は「主体的に取り組む児童の育成」「発達障害の子や不登校など配慮を要する児童への対応」である。研究テーマは「主体的に取り組む児童の育成～キリヤ教育の実践と評価～」として、「これまでと今を、これらにつなげる」魅力ある教育活動を創出していく。今年度も、高学年は教科担任制を実施し質の高い授業を目指す。通知表の評価を年2回と2回、次に次々とする評価のあり方についても追究する。配慮を要する児童への対応は、校内委員会を中心として関係機関と連携して組織的な対応に努めている。

◎地域や保護者は学校に大変協力的であり、地域の学校と環境を活用した様々な教育活動を展開している。＜言葉は「行きたい学校・帰りたい家庭・住みたい地域」＞

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

目標		取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 ★今後の改善策	評価	人数	学校関係者記入欄 コメント
ブラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員が行った。	3	4:	4:	★外国語主任を中心に外国語教育指導員をスムーズに活用できた。授業以外でも活用できるように工夫する。 ●キャリア教育推進校として、「主体的に取り組む児童～実践と評価～」をテーマに研究を行った。5年生は「地域とともに歩む」で地域・企業と、6年生は「未来・夢探検」で、NPOや企業との連携などと教材の開発ができた。 ★これまでの研究実践を生かして、新設教科「おおたの未来づくり」を含めたカリキュラム・マネジメントした指導計画を作成し、効果的な教育活動を追究していく。 ★週に1回、朝学習の時間を「学級の時間」とし、研究と関係する学級活動、総合的な学習の時間、未来づくり科にかかわることを実施できるようにする。 ●高学年の教科担任制は2年目となり、効果があった。来年度も実施する。 ●これまでの自分と今の自分について、ふりかえる学習を行うことで、「これら」になりたい自分について考えることができるようなキャリア・パスポートの学習を行った。目標をもって学校生活を送る児童が増えた。 ★本校のタブレット活用率は、区内でもかなり高い方であるが、学年・学級によって活用率に差がある。また、ICTの活用が、確かな学力の定着につながっているのか、活用の仕方についてICT担当推進リーダーを中心に検討していく。	A	10	○5年生の「地域とともに歩む」の授業に、町会の立場で参加した。町会を活性化させるために地域のことをよく調べていた。 ○保護者として5年間キャリア教育を見ている。年々進化している。人間の土台を作る取り組みである。これから楽しみである。 ○「おおたの未来づくり」では地域の方との協力が必要となると思うので、更に強いつながりをもつ必要がある。この取組は子供たちが興味をもって取り組める楽しみな教科である。 ○タブレット端末の利用については、学年が変わり担任が変わると使い方が違う家を受ける。混乱を減らすため、なるべく統一することを望む。 ○先生方の負担は心配ではあるが、毎年のように研究校として頑張っていること、素晴らしいと思ふ。地域でもできることがあれば協力したい。 ○一生懸命やってくださっていることに感謝している。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3:	3:	B	1		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログイン活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログイン活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログイン活用した。 1:60%未満であった。	4	4:90%以上 3:80%以上90%未満	2:	C	0		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	1:65%未満	1:	D	0		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	【アンケート回答数】 児童276名 保護者157名 教員21名	1:				
ブラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	4:	4:	●授業に肯定的な回答が多かった。児童が「分かる」「できる」という実感をもち、意欲的に取り組める授業を行った。 ●一人一人の学習や読書の状況を、学習カルテやチェックシート・アンケートを基に把握し、指導に生かした。 ●今年度より通知表を2回としたことで余裕をもって児童に指導する時間が増えた。 ★三者面談に向けて研修を行い、有意義な面談となるようにした。実施の時期については検討していく。 ●算数ステップ学習チェックシートを保護者に知らせず、学力の向上に努めた。 ★授業改善センターは、全教員に周知し、共通理解の上、実践した。理科などは、児童数に応じた教材・教具を準備することが必要である。 ●学習補助員による補習は、定着している。 ●図書委員会とも連携し、「家読」の期間には読書カードなどの取組ができて読書量も増えた。 ●各教科で関連する図書を、図書学習書と連携をとって活用することができた。	A	10	○先生方の熱心さが伝わる。 ○通知表が2回になったことで、個人面談では子供の様子を言葉で伝えていただけた。点数がどうでもいいわけではないが、子供が結果にとらわれないようになったことはよいこととしてとらえている。 ○読書学習書は必要な図書を選定したり、必要な図書を大森南図書館に借りに行ったり、読み聞かせをしてくれている。 ○多くの本の中から自分の読みたい本や学習に必要な本を探すのは大変だと思うが、読書学習書があることでスムーズな選び方ができている。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4	4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満	3:	B	1		
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:100% 3:80% 2:60% 1:60%以下	2:	C	0		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3		1:	D	0		
		読書活動をキャリア教育に位置付け、各教科等の指導と関連させ推進していく。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3						
ブラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4:	4:	●今年度、稲谷中学校区の3校で取り組んでいる生活学習センターの指導内容を精選して、各教員が意欲的に指導している。 ★道徳授業地区公開講座では、高学年は「いじめがなくなる方程式」という講座を受けた。低学年も外部講師を招いた授業を行い充実させていく。 ●学校生活調査結果は専科・難言教員との情報交換も行い、指導や対応に繋げている。不登校児童に対して、全教員が共通理解して組織的に取り組むことで効果をあげている。 ●「いじめ見逃しゼロ」を心がけ、学期1回のアンケート調査・スクールカウンセラーとの面談等を行い取り組んできた。 ●小中一貫の会では、稲谷中学校区の3校で不登校に関する情報を共有し、スムーズな進学につながるよう努めている。みらい学園との連携も行っている。 ●毎週月曜日の児童理解タラや毎月の特別支援校内委員会、必要な事案に対し通時行うケース会議、難言教室におけるケース会議により、児童の諸問題について組織的に対応している。 ●スクールカウンセラーや、子ども家庭支援センター、サポートピアなど外部の組織とも連携をして対応している。 ★特別支援教育に対する保護者への理解啓発の機会を設け、児童一人ひとりの心に寄り添った教育活動を行う。	A	10	○学びの多様な学校分教室「みらい学園」の連携等により、困っている子供たちの助けになっている。 ○先生方の日頃の努力が実りつつあることが理解できる。 ○道徳授業地区公開講座で外部からの講師の話を聞ける機会は専門的な話を聞けてよい。子供たちも緊張感をもって聞く姿勢が見られた。 ○児童の情報を多くの先生方が共有されていることは、安心感につながる。 ○スクールカウンセラーについては、金曜日のみということでは、保護者の予定がつかなかったり、予約がうまくいってなかなか取れないことがある。外部組織との連携等、他にも様々なサポートがあることが、もっと周知されるとよい。 ○地域でも、子育てに不安を抱えている保護者の方へ寄り添う取組がある。不安を抱えている子への対応について、地域でできることがあれば協力する。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4:90%以上	3:	B	1		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2:60%以上90%未満	2:	C	0		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	1:60%未満	1:	D	0		
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり要請を実施しなかつた。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3						
ブラン4 体力進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	4:	4:	●「早寝・早起き・朝ごはん」や「正しい姿勢」などの体育健康教育や学校としての取組については、保護者アンケートで98%肯定的な回答を得た。今後も継続していく。 ●児童発案による体力づくりを行うなど工夫したことで、運動好きな児童が増えた。主体的な取り組みを大事に実践していく。 ★意図的に外遊びをする機会を設け、積極的に体を動かす楽しさを大切さを伝えたい。 ●食育については、年間指導計画を踏まえ、学級活動や道徳科、社会科など、教科横断的に進めていくことができる。 ●外部講師による授業に関する学習後には、姿勢を良くすることによる効果について理解し、自ら気を付けようとする姿が見られた。次年度も外部講師を活用していく。	A	9	○児童が発案しての運動の取組が工夫されていてよい。 ○過去に取り組んでいた一輪車についても、コーナーが残されており、今後も継続してほしい。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	4:90%以上	3:	B	2		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	3:80%以上90%未満	2:	C	0		
		外部講師を積極的に活用し、スポーツや運動、健康教育に興味をもち、運動意欲を高める取組を推進する。	4:年度間に3回以上行った。 3:年度間に2回以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	1:70%未満	1:	D	0		
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3						
ブラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:	4:	●校内OJTは、主任教諭による研修会が計画的に行われている。即実践に生かせる研修のため、若手教員の育成につながっている。 ●校内や教室内の掲示物は、月に一度は必ず更新し、良質な教育環境をつくるよう努めた。全学級、学級目標や学級の歩みが分かるように統一できたことがよかった。 ●授業評価から授業改善に生かすように努めた。 ★各場所のおおまかな掲示計画を年度当初に作成し、よりよい環境を見ていく。 ●本校における特別支援校内委員会「すくすく」は、毎月1回行われている。	A	11	○廊下や階段は写真も多く、学校の様子がひと目で分かるのでとてもよい。 ○校内への掲示も子供たちの頑張った証や目標などがすぐ目に入るのよいと思う。 ○外部の研修へ参加する時間のない中、校内OJTが計画的に進められていることは、先生方の負担も少なく、とてもよい。 ○素晴らしいと思う。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	4:90%以上	3:	B	0		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	3:80%以上90%未満	2:	C	0		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	2:60%以上80%未満 1:60%未満	1:	D	0		
		校内、各教室・廊下等の掲示物の充実を図り、良質な教育環境をつくる。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4						
ブラン6 なつて学校とも、家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的な情報発信をする。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	3	4:	4:	●教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報については、適時ホームページに掲載している。学校の様子についても、各学年月1回以上、掲載できるように声を掛け合いながら実施している。 ★学校評価に際しては、今年度は児童・保護者ともにICTを活用して実施した。保護者アンケートの回収率がかなり下がってしまったので協力を呼びかけていく。 ●学校支援地域本部と連携して夏の「わくわくスクール」後の講座開催できた。 ★次年度から進めていく。 ●生活科や社会科の学習で、地域の店や工場などに協力していただいた。 ●家庭学習については、「家庭学習のすすめ」を配布し、保護者会でも話題にし、協力をお願いをした。また、今年度は、学年だよりを通して、家庭学習の様子を伝えたり、児童に合った課題を与えたりすることで、学年の児童へ課題学習の定着を図った。 ★家庭で学習をすることが様々な児童への対応として、家庭学習を放課後ひらばと連携して進めていく。	A	8	○地域との連携の際には、きこえの教室に通う児童への配慮もなされていて、地域の方への理解も広がり、北碓谷小学校の難読言語学級を大切に思っていることに嬉しく思う。 ○家庭学習では児童にあった課題の提示されておりよい。自分で決める以外に、選択ができる課題の提示方法があるのもよいと思う。 ○今一歩のご苦労をおかけする。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	4:85%以上	3:	B	5		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:75%以上85%未満 2:60%以上75%未満	2:	C	1		
		「家庭学習のすすめ」を発行し、児童に合った課題の提供や保護者への啓発を通して、家庭学習の定着を図る。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	1:60%未満	1:	D	0		
		「ライフ＆ワークバランス」を意識し、仕事内容を見直すとともに、効率よく仕事ができるようにする。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	タイムシステムによる超過時間が1月平均30時間以内である。 4:75%以上 3:60%以上75%未満 2:50%以上60%未満 1:50%未満	4	●週に一度必ず定時で上りれるよう、業務改善に努めた。 ●教員支援員の協力により、効率よく業務ができるようになっている。			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。